



伊万里市男女協働参画懇話会 いまりプラザ
『私らしく』生きる時代へ

ある研修会で、講師からこんな質問がありました。「生まれ変わるしたら男性と女性、どちらがいいですか。その理由も考えてください。」

私は、幼いころ「坊や」と呼ばれていて、自分でも男っぽいなど思いながら育ちました。結婚してからは「嫁」と呼ばれ、子どもを授かり「お母さん」と呼ばれるようになりました。子育てのさなかには、家事や育児、仕事で忙しく、無我夢中で走り続けました。一方、夫は私がどんなに忙し

くしていても、横でゆつたりと寝転がっていたり、飲みに出かけたりしていたので、けんかになることも度々ありました。そんなとき私は、『男に生まれればよかった』と何度思ったかわかりません。

今は子どもも独立し、孫が時々遊びに来るとい生活です。相変わらず仕事や家事は忙しいのですが、以前よりは自分の時間が持てるようになりました。

さて、冒頭の質問に対する私の答えは、『次も女性に生まれたい』です。理由は、苦勞して子どもを産み育て、忙しい日々を送りながらも「お母さん」と呼ばれる存在になれたことに幸せを感じるからです。

同じ質問を周りの人にしたところ、「思ったことをドーンとやりたいから男性に生まれたい」、「おしゃれをしたいから女性に生まれたい」などの答えが返ってきました。

これから男女協働参画の考え方が当たり前になっていくと、次に生まれてきたときは、男性であれ女性であれ、個性や能力を生かし、『私らしく』生きる時代になっているのではないのでしょうか。誰もが生きやすい社会になってほしいと思います。

芸術・文化団体が多彩な演目を披露
第54回伊万里市文化祭『合同芸能発表会』

11月8日、市民センターで伊万里市文化祭『合同芸能発表会』がありました。これは、文化団体間の交流を深めるとともに市民の文化の普及と向上を目的として、この時期に毎年開催されているものです。文化ホールでは、市内の15団体が民舞や箏曲、フラダン

スやバレエなど、日ごろの文化活動の成果を披露。会場からは惜しみない拍手が送られていました。また、館内では盆栽や生け花、書などが展示され、多くの人が足をとめて鑑賞していたほか、茶会も催されるなど、来場者は、芸術・文化の秋を堪能しました。



↑威勢のいい力強い踊りで会場が活気にあふれた邦楽舞踊 幸乃会による『男の火祭り』

郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリー所蔵 初期鍋島特集②

● 問合先 生涯学習課文化財係

(☎) 23186

色絵鳳凰文皿

関ヶ原の戦いで豊臣家に味方した鍋島家は、徳川幕府に取り潰されないうよう、将軍に中国製の磁器を献上していました。しかし、中国王朝の交代によって輸入ができなくなると、代替品として献上するにふさわしい磁器を開発させ、将軍にその仕上がりを確認したうえで生産を始めたと言われています。

写真の作品『色絵鳳凰文皿』は、1670〜80年代に作られたもので、皿の口径は19・8センチ。皿の内面には、染付と赤、淡い緑・黄で2羽の鳳凰が描かれています。裏面には唐花文を五方に配し、全体に唐草を描いてつないでいるほか、鍋島焼の特徴である高い高台には雷文が

めぐっています。

色絵鳳凰文皿は、ほかにも酷似した2点が知られています。いずれも絵付けの具合と裏面の文様が異なり、規格性が定まっていな鍋島焼成立期の特徴を表しています。また、1700年代初頭と推測される作品で、同様の図柄に染付けで雲文をあしらった色絵鳳凰文皿が10枚ほど知られており、鳳凰文は何度も使われた構図であることがわかります。



『色絵鳳凰文皿』